

XP-002274269

AN - 1982-82628E [25]

**A - [001] 013 03- 04- 06- 075 139 140 15- 18- 185 186 229 23& 231 236 259
308 310 311 359 368 393 43& 473 479 532 533 551 567 575 592 593 643
645 654 720 721**

AP - JP19810020919 19810217

CPY - SUMB

DC - A96 J01 P34

FS - CPI;GMPI

IC - A61M1/03 ; C01B31/08

**KS - 0037 0060 0205 0229 0231 1276 1277 1731 1989 1996 2020 2198 2200 2216
2218 2219 2220 2325 2493 2542 2569 2629 2651 2765 2768 2769**

MC - A08-R01 A10-E05B A12-V03B J01-D01

PA - (SUMB) SUMITOMO BAKELITE CO

PN - JP57136455 A 19820823 DW198239 005pp

- JP63013708B B 19880326 DW198816 000pp

PR - JP19810020919 19810217

XIC - A61M-001/03 ; C01B-031/08

**AB - J57136455 The active carbon for blood-clarifying use comprises
granules of dia. 5-5000 microns. It is prep'd. by (a) combining liq. or
powdery filler in thermosetting resin or its precursor, (b)
granulating the mixt. in bead form, (c) heat-hardening, (d)
carbonisation and (e) activation.**

**- The prod. has strong adsorbing activity for various waste materials,
chemicals, agricultural chemicals, etc. in blood and its surface is
mechanically strong. Thus it does not form carbon dust during use and
can be used as an adsorbent for artificial liver or artificial kidney.**

**- Conventional active carbon prepns. have a rather weak surface and
suffer from prodn. of carbon dusts during use for medicinal purposes.
As thermosetting resin Novolak-type phenol resin, resol-type phenol
resin, its urea-denatured resin, etc. are pref. used. Liquid filler
includes phthalic acid esters, alkylbenzenes, phenylethers, alcohols,
etc. and powdery filler includes pulp powder, wood powder, starch,
silica, calcium carbonate, etc. Carbonisation is effected at 800 deg.C
and activation is carried out at 800-1200 deg.C in steam, carbon
dioxide or nitrogen medium.**

**IW - PRODUCE ACTIVE CARBON BLOOD PURIFICATION COMBINATION FILL MATERIAL
THERMOSETTING RESIN GRANULE HEAT HARDEN CARBONISE ACTIVATE**

**IKW - PRODUCE ACTIVE CARBON BLOOD PURIFICATION COMBINATION FILL MATERIAL
THERMOSETTING RESIN GRANULE HEAT HARDEN CARBONISE ACTIVATE**

NC - 001

OPD - 1981-02-17

ORD - 1982-08-23

PAW - (SUMB) SUMITOMO BAKELITE CO

**Tl - Prodn. of active carbon for blood purifcn. use - by combining filler
material with thermosetting resin, granulation, heat hardening,
carbonisation and activation**

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭57—136455

⑬ Int. Cl.³
A 61 M 1/03

識別記号
1 0 3
1 0 6
1 0 7

厅内整理番号
6829—4C
6829—4C
6829—4C

⑭ 公開 昭和57年(1982)8月23日
発明の数 1
審査請求 未請求

(全 5 頁)

⑮ 血液清浄化用活性炭

⑯ 特 願 昭56—20919
⑰ 出 願 昭56(1981)2月17日
⑱ 発明者 恒次利幸
藤沢市城南1—12—8

⑲ 発明者 野口康夫

横浜市港北区下田町177

⑳ 出願人 住友ペークライト株式会社
東京都千代田区内幸町1丁目2
番2号

明細書

1. 発明の名称

血液清浄化用活性炭

2. 特許請求の範囲

熱凍化性樹脂、またはそれらの各種前駆体に対して液状または粉末状充填材を添加し、造粒して球状ビーズ状物を加熱凍化後、炭化、賦活してなる直径 8～5,000 μm の血液清浄化用球型活性炭。

3. 発明の詳細な説明

この発明は血液中に含まれる各種老廃物、酵素などの毒物、医薬などの各種毒物に対する吸着除去能のすぐれた球状活性炭に関するものである。

さらにくわしくは、腎臓や肝臓の疾患により血中濁度の異常に上昇した尿酸、クレアチニンはじめ血中に含まれる低～中分子量の各種老廃物、過剰の過酸素などの各種の有害な毒物、酵素や殺虫剤などの各種の毒物を緊急に除去するための直接血液灌流療法に使用することができ、

又これらの物質に対してすぐれた吸着能を有する上、球状に近い形状と相まって熱凍化性樹脂由来の堅牢な表面を有するため脱離の発生を防めて強く押えることができるなど、極めてすぐれた医療用、特に血液清浄化用球型活性炭に関するものである。

従来から血液清浄のために活性炭が使用されているが、もつとも古くから使用されているヤシガラ炭は表面に突起が多いため粒状炭相互の衝突や摩擦によつて脱離が出やすく、保護するためコーティングなどを行なつても完全にこれを防ぐことはできない。この点を改良するために新たに石油ピッチを造粒して焼成した活性炭の使用も検討されているが、この場合も脱離の脱出を完全に防ぐことはコーティングなどを施してもなお難いので困難である上、原料ピッチに含まれるベンゾピレンはじめ数々の芳香族系多環芳香族の溶出の可能性が大きい等の問題点がある。更に天然または合成樹脂を焼成した樹脂状の活性炭の使用も検討されているが、

吸着性を向上させるために賦活反応率を上げると特に炭酸が出やすくなるとか、速度が低下するため形状保持が困難であるなどいずれにも多くの致命的とも言える欠陥があつた。

これら各種活性炭の原料、製造条件とこれらの欠陥との関係を考慮して、各種有機質原料を用いて研究を重ねた結果、熱硬化性樹脂を造粒し焼成した粒状活性炭が、従来のものと比較して非常に大きな表面強度を有するものであり、コーティングを施さなくても全く炭酸の漏出は見られず、使用原料がいずれも蒸留などの精製を経由して合成されたものであるためにベンゾピレンなどの有機化合物系の有毒物質の放出の可能性がなく、しかも従来の活性炭と同程度の吸着能を有することを見出した上、この発明の熱硬化性樹脂造粒、硬化、焼成が極めて堅牢かつ緻密な炭素を有するために、賦活反応が一般の活性炭原料に比べて著しく困難である点を改良するため、この発明の原料の熱硬化性樹脂に対して各種の液状または粉末状充填材

を添加した上で造粒する方法が有効であることを見出して、本発明を完成したものである。

本発明の活性炭による血液の浄化方式としては、従来の活性炭においては、炭酸漏出が避けられなかつたために実際困難であつた直通血液漏出を高い安全性のもとに実施することが可能となつたほかに、種々の方式の人工肝臓、人工腎臓装置に組込んで使用することができることは勿論、経口投与タイプの血液清浄化剤としても使用が可能である。

本発明の活性炭は、このように老廃物、毒物、薬物に対して従来のビート炭、ヤンガラ炭、石油ビッチ炭と同様の吸着能を有する上、熱硬化性樹脂原料に起因する高い表面強度と緻密さとを有するものであるため、血液清浄化用活性炭として高確の適性を有するものであると言ふことができるが、さらにその表面に常法により各種の化学薬剤を施して吸着特性を改変して血液中の特定の成分または成分群に対する吸着特性を増強させて使用してもよく、該粒状活性

炭を血液や同様の老廃物、毒物、薬物を含むものの内の体液とともに流動状態で接触せしめてこれら血液や体液の浄化をはかる方式の装置に組込んで使用する際には、本発明の粒状活性炭の表面強度は極めて大きく、かつ緻密なものではあるが、さらに安全性を高め、かつ血液と直接に接触する場合には凝血を防ぐためにゼラチンやセルローズなどの天然物をはじめコロジオンや親水性メタクリレート系共重合体をうすくコーティングして安全性の点で万全を期して使用することができるのは勿論である。

この発明の粒状活性炭の粒径は血液や他の体液の浄化装置の方式によるが、一般には5mm~5mmとする必要があり、50mm~2mmとすることがより堅牢しく、5mm以下とすると充填層の流動抵抗が大きくなり過ぎるとか、血球との付着が困難になる、血管への流入の危険性が出て来るなどの欠点があり、5mm以上とすると吸着強度が極めて低くなるとか、相対的な表面強度が逆に低下するなどの好ましくない現象が現

われて来るのでいずれも望ましくない。

本発明に使用することのできる熱硬化性樹脂としては、熱硬化せしめる前の造粒工程において既成または溶融粘度の調節が容易であり、有毒な重金属触媒を含まず、硬化が著しく速いものでなければ、タールやビッチ系など未処理、未精製の充填材や処理剤を使用しない限り、フェノール系樹脂、それらをメラミン、尿素、キシレン、不飽和油類で変性した樹脂、ジアリルフタレート樹脂、エポキシ樹脂、尿素樹脂、メラミン樹脂、ウレタン樹脂、不飽和ポリエステル樹脂、アルキド樹脂またはこれらの2種以上の混合物があり、いずれも同様に使用することができるが、吸着強度を上げて炭素強度をより大きくしうる点で、ノボラック型フェノール樹脂、レゾール型フェノール樹脂や、その尿素変性樹脂を用いることが好ましい。

これら熱硬化性樹脂の反応性、粘度、分散性などを調節するための方法の一つとして、樹脂の全量または一部を各段階の前躯体に替えて使

用することもできる。

本発明に使用することのできる液状充填材としては、加工組成物で液状であり、使用する熱硬化性樹脂またはそれらの各種の樹体と相容性があり、適度かきませ下に溶解させておいて硬化させるという適応法をとる場合は、その分散媒に不適であることが宿ましく、熱硬化樹脂への添加後賦活して球型活性炭とした後、脱離用途に使用される期間を通じて無毒性であることが必要であり、使用する熱硬化性樹脂との反応性がなく、それらの反応性を著しく低下させることなく、混台、造粒など炭化以前の工程においては実質的に蒸発しないものであることが必要であり、使用する熱硬化性樹脂の種類に応じて選定することが必要であるが、一般にはフタル酸ジオクチル、フタル酸ジブチルなどのフタル酸エステル類、キシレン、エチルベンゼン、メシチレンなどの比較的沸点の高いアルキルベンゼン類、ジフェニルエーテル、トリフェニルエーテルなどのフェニルエーテル類、ビスフェ

ノールXやそのエステルおよびエーテル類、ナフタレンおよびそのアルキル誘導体などの各種芳香族系液状物のほか、メタノール、エタノール、グロボノール、ブタノール、グリセリン、エチレングリコール、プロピレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、ジブロピレングリコールなどのオリゴアルキレングリコールなどの各種アルコール類、これらのエーテルおよびエステル類などの脂肪族液状物、および水などの中から条件に合うものを選んで用いることができる。

本発明に使用することのできる粉末状充填材としては、造粒工程を容易にするためにその長さおよび粒径は何れも 100 μm程度以下のものである必要があるが、材質は各種木粉の粉末、パルプやセルロースの粉末、繊粉およびその化学繊維などの有機系粉末のほか、シリカ、脱離カルシウム、炭酸マグネシウム、不燃炭などの無機系粉末がある。

さらにこれら熱硬化性樹脂組成物から球状物

を製造するための各種造粒工程においては、樹脂組成物が不溶の分散媒中にこれら樹脂樹を、より好ましい粒性に分散、溶解させるために各種界面活性剤を添加して、樹脂組成物および/または分散媒の表面張力を改変してもよいし、同様に他の乾式または半乾式造粒工程においても粒子表面の親水性を削除し、静電気を防ぐなどの目的で各種の改質剤を添加して用いることができる。勿論である。

本発明の作用効果は活性炭の造粒方法によつて限定されるものではないが、一般には粒径 500 μm 以下のものについては原料樹脂液と相容性のない液状樹体中に溶解せしめた状態で少くとも部分的に硬化反応を行なわせて固化させ、樹体を分離除去後部分硬化または完全硬化したこれら樹脂塊を焼成すれば、可能な限りの架橋・硬化反応が完結した後、造粒・成型したところの形状を有する球状炭とすることが可能であり、より粒径の大きいものについては安ければより小径の球状炭または焼成前の液状樹脂化

樹脂のほか、無毒性的の種々の有機または無機系液状物を添材とし、これらの表面に原料樹脂の溶解または溶液を 1 回または 2 回以上塗り重ねて所期の粒性にまで増大させた上で硬化させた後、小径のものと同様に焼成してもよい。

これら粒状硬化物はさらに常法によつて水蒸気、炭酸ガスまたは窒素ガス等通気で 800 ~ 1,200 °C に加熱賦活して、吸着能を引上げて使用してもよい。

以下に実施例によつて本発明をさらに詳しく説明する。

実施例 1

水酸化ナトリウムを触媒とし、フォルムアルデヒド/フェノールモル比 1.85 として合成了レゾール型フェノール樹脂のエチレングリコール中 60% 溶液に、硬化剤として 1.5 部(重量部、以下同じ)のヨートルエンスルホン酸を加え、塩化パラフィン中に運動かきませ機でかきませながら分散させ、105 °C に 3 時間かきませを続けながら加熱硬化させて球状硬化物とし、運動

バラフィンを別成ローへキサン中に分散させてよく洗つた後、回転炉中で150℃に3時間加熱してさらに硬化を進め、引抜いて出来ガスを吹込みながら10℃/分の昇温速度で800℃に加热し、同温度で2時間保つて焼成した。引抜き同温度に保ちながら出来ガスを水蒸気流に切換え、10℃/分の昇温速度で950℃に昇温して30分間保持した後、同様通気下で放冷し、分散して得た300~500μmの粒径を有する球状活性炭を蒸留水でよく洗い、120℃で1時間乾燥した吸着能を測定した。

実施例2

実施例1で合成したレゾール型フェノール樹脂の前躯体として、同例で使用したとそれぞれ等量のフェノール、フォルムアルデヒド、および水酸化ナトリウムを、プロピレンクリコールノ水の1/1浴液中に、樹脂化後の樹脂分含有率が60%となる量を秤取して混ぜ、かきませてニステンレス製オートクレープ中100℃に保つた過剰の強烈バラフィン中に投入、分散せしめ、

5時間かけて硬化せしめた。実施例1と同様にして處理、焼成した母状炭を、炭酸ガス気流中で650℃に20分間保持して減圧した後、同条件で放冷して得た50~100μmの粒径を有する球状活性炭を実施例1と同様に水洗、乾燥した吸着能を測定した。

実施例3

平均粒径がフェノールの4液体からなるノボラック樹脂版に対し、当量の120%のヘキサメチレンテトラミンを添加し、メタノール/ブタノール浴液に溶かして50%浴液とした。50μm以下に粉碎した木質粉末を樹脂分の60%添加しよく混合して得たフレーク状物をロール塑型機にかけて粒径3mmの球型に造粒した。実施例1で使用した回転炉に移し、同じ、120℃、200℃で各1時間硬化後、出来ガスを通気で引抜いて5℃/分の速度で昇温して700℃で1時間焼成し、炭酸ガス気流に切換えて10℃/分で昇温して900℃にし、同条件下で2時間減圧した。得られた球型活性炭を実施例1と同様に水

洗、乾燥した後、吸着能を測定した。

実施例4

ビスフェノールAジクリシジルエーテル型エポキシ樹脂100部、無水メチルナシフク酸90部トリス(ジアミノメチル)フェノール3部、タル酸ジオクチル50部および120部のバルブ粉末を混練し、得られたフレークを実施例3と同様にして粒径2.5mmの球型に造粒した。実施例1で用いた炉を使用し、100℃および150℃で各1時間加熱して硬化後、炭酸ガス気流中5℃/分の昇温速度で980℃まで昇温し、同温度で20分間保つた後、得られた活性炭を水洗、乾燥後吸着能を測定した。

比較例1

実施例3で使用したノボラック型樹脂およびヘキサメチレンテトラミンを同一比率为加熱後、同例と同様にして造粒して得た3mm径の球状樹脂を、同例と同一条件下に硬化、減圧して得た活性炭を、同例と同様にして水洗、乾燥後吸着能を測定した。

第1表 活性炭の吸着能および炭酸流出能

	吸着能(%)		
	尿酸	クレアチニン	ビタミンB-12
実施例1	9.8	8.9	8.3
実施例2	9.4	8.5	7.8
実施例3	10.0	10.0	9.6
実施例4	10.0	9.8	9.0
比較例1	5.7	2.4	5

吸着能は各吸着成分の单独水溶液(尿酸10mg/dl、クレアチニン5mg/dl、ビタミンB-1220μg/dl)各20mMに對し1mgの活性炭を添加し、37℃において2時間で振とうし、吸着せしめた後、残存濃度を液体クロマトグラフで分析した。

以上の実施例および比較例で得た球状活性炭の血液中の老廃物成分などに対する吸着能の測定結果を第1表にまとめたが、この結果から実施例1~4で得た球状活性炭はいずれもほぼ同程度の高い吸着能を有しており、この発明の液状または粉末状の充填材を用いないもの(比較

例1)に比べると、この充填材が熱硬化性樹脂
硬化物の壁等かつ被覆な表面に対しても吸着反
応を容易にしていることが明らかであり、この
発明の提供する熱硬化性樹脂由来の活性炭から
はベンゾピレンなどの発ガン性物質の磨出の可
能性が全くないこと、取扱中の炭塵の発生が極
めて少いこともあり、血液清浄化用活性炭とし
て極めて優れたものである。

特許出願人 住友ペークライト株式会社